

SIIEJ2023 Session11

「留学・国際プログラムのアセスメント・PDCA・教育的介入 －BEVI 利用大学の事例紹介－」 報告書

日時

7月21日（金）15:10-16:30

発表者

西谷 元（広島大学 高等教育研究開発センター 特命教授・創価大学 BEVI 推進室客員教授）

中野 遼子（東北大学歯学研究科 特任講師）

石橋 有紀（創価大学 学士課程教育機構 専任講師、創価大学 BEVI 推進室）

上杉 裕子（叡啓大学 教授）

ジョージ・マイケル・ヒギンボサム（叡啓大学 准教授）

高城 宏行（玉川大学 文学部 准教授、国際教育センター 副センター長）

木村 かおり（マラヤ大学 人文社会科学部 東アジア研究学科 講師）

植村 友香子（香川大学 地域・産官学連携戦略室 特命准教）

小早川 裕子（東洋大学 准教授、国際教育センター 副センター長）

比留間 洋一（静岡大学 国際連携推進機構 特任准教授）

菅原 靖（山形大学 学術研究院 准教授）

田北 冬子（広島大学 森戸高等教育学院 准教授）

参加人数

28名（対面）

報告者

小山 晴美（一般企業）

本文：

グローバル人材育成を目指す大学が増える今日、各大学はグローバル人材育成プログラムの効果の見える化を進めている。その1つの評価ツールとして、BEVI (The Beliefs, Events, and Values Inventory) を採用する日本の大学が増えてきている。

当セッションでは、日本における BEVI 推進を牽引する西谷さんが登壇し、BEVI はグローバル人材に必要な「スキル、知識」だけでなく、水面下に隠れている「動機、価値観、行動特性、使命感」といったコンピテンシーも測定できることを説明。

その後、BEVI を採用している 10 校の大学（東北大学、創価大学、叡啓大学、玉川大学、マラヤ大学、香川大学、東洋大学、静岡大学、山形大学、広島大学）が実例と結果を発表。

これらの大学のグローバル人材育成プログラムは多種多様であるが（留学プログラム、インターン、COIL教育など）、BEVIを用いることで効果を数値化しプログラム改善に役立つとの共通意識があった。測定結果の変数としては、ジェンダー、学部、プログラムの期間、受験実施のタイミング、GPA、留学先などが挙げられ、これらの要素の効果を明らかにすることで今後のグローバル人材育成プログラムの改良につなげることが確認された。

英文：

In response to the increasing need of cultivating globally competent individuals, a rising number of universities are seeking to quantify and visualize the outcomes of their international education programs. As one of the evaluation tools, many universities have adopted BEVI (The Beliefs, Events, and Values Inventory).

At the beginning of the session, Mr. Nishitani, a leading advocate for the promotion of BEVI in Japan, provided an overview of the assessment tool, emphasizing that it evaluates not only conventional “skills and knowledge” related to global citizenship but also hidden competencies like “beliefs, values, attitudes, and worldview.”

After the introduction, ten universities (i.e., Tohoku University, Soka University, Eikei University, Tamagawa University, Malaya University, Kagawa University, Toyo University, Shizuoka University, Yamagata University, Hiroshima University) that implemented BEVI shared their research findings. They recognized that BEVI is essential in measuring and improving their own international education programs, such as study abroad, internships, and COIL education. The analysis of their results included factors like gender, department, program duration, timing of assessment, GPA, and study abroad destination. Understanding the impact of these factors would pave the way for improvements in future international education programs.